

明美ちゃん基金ミャンマー医療団 9日から最後の渡航

2020.2.7 19:47 | ライフ | くらし

国内外の心臓病の子供たちを救う「明美ちゃん基金」（産経新聞厚生文化事業団運営）の医療団が、ミャンマー・ヤンゴンの国立ヤンキン子供病院で医療支援を行うため、9日に日本を出発する。平成27年度から始まった基金によるミャンマーへの医療支援は5年間と定められ、3月でその期間が終了、医療団派遣は10回目となる今回が最後になる。ただ、ヤンキン子供病院との間で支援期間延長を検討しており、渡航中に方向性を示す方針だ。

明美ちゃん基金ミャンマー医療団の治療実績 (単位:人)

	第1回 平成 27年9月	2回 28年 5月	3回 28年 9月	4回 29年 2月	5回 29年 9月	6回 30年 2月	7回 30年 9月	8回 31年 2月	9回 令和 元年9月	計
内科	26	22	26	25	28	33	24	24	31	239
外科	11	—	8	8	8	9	9	14	15	82
計	37	22	34	33	36	42	33	38	46	321

現地では、同病院の医師らへの技術指導を通じて、子供たちへの外科手術やカテーテル治療を実施。今回もNPO法人「ジャパンハート」のヤンゴン事務所と協力し、同病院の医師らとともに活動していく。

基金は27年3月、ヤンキン子供病院と「ミャンマーにおける先天性心疾患治療の発展に向けた医療支援事業」に関する覚書を締結。医療団はこれまでに計9回渡航し、内科239人、外科82人の計321人の子供に無償で治療してきた。さらに現地医師らを東京女子医大（東京都新宿区）や国立循環器病研究センター（大阪府吹田市）などで受け入れ、研修を行うなど人材育成に尽力してきた。

ヤンキン子供病院をはじめとした現地医療関係者らは支援の延長を希望していることから、基金も延長を前提に検討を進めている。

医療団のメンバーで国循小児心臓外科の市川肇医師は、「最後となる今回も気を引き締め、若手医師の育成と、将来の現地医療の発展につなげたい」。東京女子医大病院循環器小児科の中西敏雄医師は、「5年間の総まとめとして現地の医療技術の向上やこれまで成果をしっかりと確かめたい」と意気込みを語った。



協力 東京女子医大病院、国立循環器病研究センター、ジャパンハート



明美ちゃん基金への振り込みは、ゆうちょ銀行00920-4-333518（同銀行に口座をお持ちの場合、ATM、ゆうちょダイレクトからは手数料なしで振り込めます）か、三菱UFJ銀行堂島支店・普通口座4535010、りそな銀行堂島支店・普通口座6202543の「明美ちゃん基金」。お名前を紙面で紹介させていただきます（匿名も可）。